

## 経済倶楽部便り

◆東京◆ 4月に入り、2021年度が始まりました。事務局は前年度の収支状況など事業報告書の作成などで多忙でした。講演では医療ジャーナリストの森田洋之氏の「医療崩壊」の不都合な真実」が注目されます。森田氏は以下のような指摘をされました。日本の病院は8割が民間病院で、いずれも満床を目指して経営している。そのため、病床が多い県ほど医療費も累増する。また世界的に病床が多いほど実は平均寿命が下がる。さらに、大阪の病院が満床なのに近郊の鳥取や島根、山口ではガラガラなど。その理由を説明して頂きました。6月号に掲載されます。

新会員をご紹介します。4月入会で電通出版ビジネス・プロデュース局部長の里見文崇様、同山下実様、宮永耕治様です。

6月の講師は東京財団政策研究所主席研究員の早川英男氏、ノンフィクション作家の保阪正康氏、国際政治学者の三浦瑠麗氏、笹川平和財団上席研究員の渡部恒雄氏を予定しています。

◆中部◆ 4月にお呼びした拓殖大学海外事情研究所教授の富阪聰氏は「戦前の独ソ不可侵条約、戦後のニクソン訪中など、日本は急激な状況変化に混乱することがよくある。これは日本人が外交を利害で見てないため」と指摘されました。6月の講師は自動車アナリストの中西孝樹氏、ジャーナリストの中岡望氏を予定しています。

(日暮良一)